

第3種郵便物認可

不登校の子どもも支援を

NPO、宮崎市教委に要望

宮崎市のNPO法人「宮崎もやいの会」（小林順一代表）は、不登校やひきこもりの児童生徒らを対象とした、訪問看護を活用した早期支援事業の実施を求め、要望書を市教委に提出した。同法人は昨年度、関係機関と連携して不登校児らへの訪問型伴走支援事業に取り組んでおり、その成果を示した上で制度化を訴えた。写真。

同事業は独立行政法人福祉医療機構（WAM）から助成を受けて実施。支援を希望する不登校の児童生徒がいる県内16世帯で、訪問看護師が訪問支援を行った。



題字・押川 直央さん
(恒久小5年)

小林代表ら6人は21日、同市の清武総合支所を訪問。まずは市内モデル校で同事業を実施し、制度化に向けた検討を行うーといった内容の要望書を小川充副



教育長に手渡した。

意見交換の場では、訪問支援に携わった訪問看護師が医療支援につながった事例を紹介するなど、医療的な観点を踏まえて家庭を直接支援できる事業の有効性を訴えた。

福祉や子育てなど重層的な支援が必要となる同事業に対して、小川副教育長は「市全体でも共有して、検討したい」と述べた。小林代表は「関係者らと協力して制度化への働きかけを続けていく」と話していた。

(日高智明)